

戸田 あつひろ 活動報告



戸田敦大(とだ あつひろ)
昭和60年6月24日生まれ(39歳)

ご挨拶

皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

南海トラフ地震はマグニチュード8～9クラスの地震の30年以内の発生確率が70～80%とされています。いつ起こるともわからない自然災害から皆様の生命と財産を守るため、9月定例会の一般質問で行った「南海トラフ地震への備えについて」の項を中心にご報告させていただきます。

各避難所への備蓄倉庫が必要!

能登地震への自治体の対応を知るために5月に会派、結の会で氷見市に伺いました。氷見市では避難所ごとに防災倉庫を設置し、そこに物資を備蓄していたため能登地震が起きた際にもスムーズに物資が行き渡ったそうです。淡路市では一次避難所が35箇所あり、それぞれの避難所に物資を行き渡らせるだけでも時間と人手を取られてしまいます。このことから各避難所に備蓄倉庫を設け、物資を備蓄しておくことが有効だと考えます。



加えて、リアルタイムに「物資の何が、どこに、どれだけあるのか」がわかるプラットフォームがあれば災害時に役立つと考えます。現在は市のホームページ上に備蓄品と数量が公開されていますが、災害時には物資の支援も受けることから種類や在庫が流動的になります。これらを市民と共有できるプラットフォームの整備を提言しました。

体育館への空調設備の整備が必要!

二次避難所は福祉避難所とも言われており、高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、病弱な方など配慮の必要な方々を対象とした避難所です。災害関連死と認定された方は東日本大震災では3794人、熊本地震では222人、能登地震では52人とされています。避難所の環境が優れているほど救える命があります。文科省の調査によれば避難所で問題となった施設の整備においてトイレが74.7%、次いで高いのが冷暖房設備で70.3%とされています。淡路市では33箇所の二次避難所のうち、市内の小学校16校が登録されており、これらには空調設備が整備されていません。これらの二次避難所、特に小中学校体育館への空調設備の整備が必要であると考えます。



避難所トイレの整備が必要!

災害時、断水が起きると水道の復旧まで1ヶ月以上かかると言われています(能登地震では5ヶ月もかかった地域もありました)。また、エコノミー症候群を誘発し災害関連死にも繋がります。本市も災害備蓄品の中に仮設トイレを備えていますが、仮設トイレの設置には発災から3日程度要するとも言われています。こうした中、注目を集めているのがマンホールトイレです。マンホールトイレは下水道管に接続する排水設備上に便器や仕切り施設等を設置するもので、そのメリットは

- 組み立てが簡単で迅速に設置できる
- トイレ掃除に使った水やトイレトーパー等を水栓トイレと同様に流すことができる
- 便器下部にタンクが無いことからトイレの段差を最小限に抑えることができるなど

避難所における問題のうちトイレが74.7%と非常に問題視されています。また、前述の仮設トイレでは設置まで3日要するところ、マンホールトイレでは1日から2日で設置することができると言われています。こうしたことから避難所へのマンホールトイレの整備を提言しました。



迅速に設置できるマンホールトイレ

あとかき

今回の一般質問にあたって、1月1日に発生した能登半島地震での被災状況、被災された方々のご意見を参考にさせていただきました。2月に復旧ボランティア、5月に会派視察にて被災地に入り現場の人々のお声を伺い、未だ復旧にすら至っていない状況を目の当たりにしました。加えて9月に被災地を襲った豪雨においても復旧半ばの能登地域においての人々の気持ちはいかばかと存じます。お亡くなりになられた方々に対し衷心よりお悔やみを申し上げるとともに、1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



七尾市
ボランティアセンターの様子



皆様の声を
市政に届けます!

戸田 敦大

自己紹介

戸田敦大(とだ あつひろ) 昭和60年6月24日生まれ(39歳)
岩屋中学校、明石高校、甲南大学経営学部 卒業

略 歴

2008年 ゼブラ株式会社 入社
営業として名古屋支店勤務。主に北陸地方を担当する。地方と都市部の格差や、地方の疲弊を目の当たりにし、淡路市へ帰ることを決意する。
2010年 淡路磁油株式会社 入社
2021年 淡路市議会議員選挙 初当選
2022年 産業厚生常任委員会副委員長会派「結の会」所属
2023年 総務文教常任委員会副委員長

